

令和4年度 こども園（保育園）関係者評価

施設評価シート

子育てセンターとものもり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和5年 2月 21日（火） 14:30 ~ 15:30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

自分のことが好き、友だちのことが好き
～周りの人とのつながりを大切に認め合い、伝え合える仲間づくり～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

みてみて。それいいね。もっともっとやってみよう！
～友だちと見たり、聞いたり、感じたりして、発見した気づきを遊びに取り入れよう～
幼児教育は環境を通して行います。子どもたちが自分の周りの環境に自ら関わり、様々な気づきや発見があります。子どもたちの気づきから、子どもたちが主体的に遊びが展開、発展していけるように、保育教諭は、環境を整え、子どもたちの遊びを捉え、環境の再構築をしていきます。とものもりでは、友だちの気づきや素敵だなと感じたことを友だちに伝え、伝え合い認め合ってきました。そこで今年は子どもたちがもっともっと「知りたい」「こうしてみたらどうなる？」と掘り下げていく過程を楽しみ、主体的に遊びを工夫する経験を充実していけるよう、遊びの過程を観察したり、つぶやきを拾ったりしながら環境の再構成に努めます。子どもの姿写真やつぶやきを入れながら保護者の方にも紹介していきます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解して取り組んでいる。 ・担任だけでなく園全体で保育している。 ・重点目標を理解して意識している。子どもの気づきや姿を見守り、話し合いをし、情報を職員間で共有している。 ・他クラスの取り組みについて細かいところの把握ができていない時があった。 ・重点目標への取り組みを園全体で同じ方向を向いて実践できている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計結果より肯定的な意見が多く、グラフからも概ね良いと思われる。 ・職員個人の自己評価が分からないが、評価理由から十分に達成されていたと思う。 ・保育に園の特色が表われており、重点目標の見える化の実践が成されていた。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成できている。反省を活かしてPDCAサイクルができるよう、別クラスでの話し合いができています。 ・急な変更があった際も職員配置の計画を立てているため、対応できている。 ・職員間で意見を言いやすい雰囲気ができているため、子どもの姿を見据えて、環境を変えたり遊びの提供ができ、子どもたちの遊びが発展できている。 ・3～5歳児クラスでの話し合いの時間を設けていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育を計画し子どもが楽しんでいる様子が伝わる。また、積み重ねが感じられる。 ・職員間で意見交換が行われ情報の一定の理解が得られ保育がされていると思われる。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・その子らしさを認め、個々に合わせて見守ったり、声掛けができています。 ・遊びの時間にゆとりを持ち、一人ひとりのやりたいことを満足するまでできている。 ・どの職員でも安心して関り、クラスにこだわらず関わって保育している。 ・コロナ禍で、地域の方との交流は難しいが、声をかけて下さり気にかけていただき、交流ができています。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりが自分の好きな活動を選び取り組んでいる。 ・一律ではなく様々な方向性を一つの活動の中に盛り込んで計画をされている。 ・子どもたちののびのびした姿を見ることができた。 ・個人を把握・尊重しながら苦手を軽減し得意なことを最大限発揮できるような支援が成されていて素晴らしいと感じた。その園児に限らず、一人ひとりに合わせたきめ細かな保育が成されているように感じた。また、担任がその場を離れても、他の職員が一人ひとりを把握し適切な援助をされていた。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔を意識して声掛けをしている。 ・子どもたちの成長や小さなことでも意識して伝えていく。 ・クラスの枠を越えて、送迎時に一人ひとりの姿を伝えるよう心がけている。 ・コロナ禍で園舎の中に入れないこともあり、情報発信の工夫が必要である。 ・保育参加が半日と短く、残念であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・担任に限らずどの職員も、小さなことでも子どもの様子を報告してくれるので、情報共有されていることが伝わる。しかし、コロナ禍で仕方がないが一日の様子が気になる日もあり、降園時に職員と話がしたいと思う時がある。支度だけ済ませて帰ることに寂しさを感じることもある。 ・集団生活の場であるが、保護者にとってはたった一人の子ともである。保育する側とされる側の価値観が違うことは当然あるが、保護者に寄り添ってコミュニケーションを更に意識してみてもどうか。 ・安全な保育の確保や保育者の数（法定）などの問題で限界があると思う。必要不可欠な情報は確実に伝わっているようだ。個別面談の希望に対応されているので良いと感じる。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターにて様々な取り組み（講座・製作・イベント等）をしており、楽しい活動ができた。 ・災害時には、支援センターを地域の避難場所として提供することを地域の方と共有している。 ・子育て通信「ぬくとんぼ」を地域の方が手に取れる場所に置いている。 ・散歩中に挨拶をしたり、陶芸教室、さつま芋の苗植えから収穫まで、ティサービスの方との交流などしてきた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に連携を図れるよう地域との打ち合わせと施設見学を実施している。 ・公道が目の前であり人通りが多いことや門が開いているため、だれでも簡単に入ることができてしまう。また、年度後半になってくると名札の着用の徹底が曖昧になってきているため、着用していない方が目立つ。保護者と不審者の見分けがつかう徹底することの大切さを感じる。 ・公会堂が隣接していたり高齢者施設が近所にあたりすることで地域交流がしやすい環境にある。
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの得意なことを活かして保育している。互いに認め合い、働きやすい環境がある。 ・職員同士が思いやりのある優しい言葉かけができています。 ・コロナ禍で研修に参加できない現状がある。 ・整理整頓を心掛けていきたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資料からコミュニケーションが良くとれていることが伺えた。 ・運動会では、職員が担任クラスの園児のみではなく全体の園児の保育に目を向けて関わり、チームワークの良さを感じた。